

# ベビーサイン育児が母親の育児不安感や育児幸福感に与える影響

吉中みちる<sup>1)</sup>, 齋藤陽子<sup>2)</sup>, 佐々木恵理<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>一般社団法人日本ベビーサイン協会, <sup>1)</sup>岐阜女子大学研究生, <sup>2)</sup>岐阜女子大学文化創造学部  
(2020年11月13日受理)

## Impact of Baby Signs on Mothers' Child-rearing Anxiety and Fulfillment

<sup>1)</sup>Japan Baby Signs Association, <sup>1)</sup>Graduate Student at Gifu Women's University

<sup>2)</sup>Faculty of Cultural Development, Gifu Women's University

YOSHINAKA Michiru<sup>1)</sup>, SAITO Yoko<sup>2)</sup>, SASAKI Eri<sup>2)</sup>

(Received November 13, 2020)

### 要 旨

発話能力が未熟な段階の乳幼児と手話やジェスチャーを使ってコミュニケーションするベビーサイン(乳幼児用手話)について、0～24ヶ月児の母親を対象とし、アンケート調査を実施した。育児不安感、子どもとの関係、子どもに対する感じ方、育児幸福感についての回答を分析し、ベビーサインとの相関関係を調べた。その結果、ベビーサインを育児に取り入れた母親は、取り入れなかった母親に比べると、「赤ちゃんが泣くと不安になる」「泣いている理由がわからなくて困る」「自分の育児に自信が持てない」などの項目の数値が有意に低く、母親の育児不安感を低減させている可能性が示唆された。

キーワード：ベビーサイン, 育児不安感, 育児ストレス, 母親, 0～24ヶ月

### Summary

Surveys were conducted to study the impact of baby signs (infant sign language) on the mothers who have infants of 0 to 24 months. Baby signs are sign language vocabulary and gestures used to communicate with infants who have not sufficiently developed verbal skills. The obtained survey data were examined to measure the correlations between the use of baby signs and child-rearing anxiety, relationship with the child, feelings toward the child, and child-rearing fulfillment. We found that mothers who used baby signs with their infants are less likely than mothers who did not use baby signs to report having anxiety about infants' crying, being perplexed about the reasons for infants' crying, having not enough confidence in

child-rearing, etc. Our analysis suggests that the use of baby signs could lead to reduction in the feeling of anxiety in child-rearing.

Keywords: baby signs, child-rearing anxiety, child-rearing stress, mothers, 0 to 24 months

## I. 問題

### 1. はじめに

子育てとは一人の人間を産み育てる重大な責任が伴う「仕事」である。通常「仕事」は誰かから引き継いだり、教えてもらったり、先輩のやることを見ながら学ぶ事が多いが、核家族の中での「育児」という仕事は、誰しも「初めて」の事を試行錯誤して取り組まなくては行けない。また、昨今の情報過多な世の中では、分からないことはネットでほとんど調べることができるが、それが本当に正しい知識なのかということもわからないまま、我が子に当てはめながら試行錯誤していくことになる。このような環境の中で育児をしていると、多くの母親にとって育児ストレスが高まるだろうことは容易に想像される。

### 2. 子育てと育児不安・育児ストレス

「CiNii Articles」で調査したところ1990年～2019年の間に書かれた論文の中で「育児不安、乳幼児」というキーワード検索では131件の文献が検出された。

育児ストレスが高い母親と低い母親を比較観察した大河内(2000)は、親として自信がない、もしくは親としての役割に規制感を感じている場合は、子どもへの否定的な関わりが続くとしている。また、希薄な夫婦関係である場合は、妻の抑うつ感情が高くなり、それに伴い、養育感情が否定的なものになることが分かったとしている。

また、佐野(2002)は、0歳から3歳までの子どもを持つ母親の育児負担感には「子どもの反抗」と「子どもの気質」の2つの要因

が影響していることを述べており、出産前に仕事をしていた女性が専業主婦となり母親になる方が、育児負担を感じやすく、ストレスも高くなることが示唆されたとしている。

さらに、島田・杉原・橋本(2019)は、育児ストレスや育児不安、育児困難を抱える母親への育児支援の方法について文献レビューを行い、1. 訪問による支援、2. 育児への考え方と養育スキル習得の支援、3. 児との触れあい方の支援、4. 母親同士のピアサポートへの支援、5. リフレッシュを促す支援、6. 育児支援プログラムの開発の6つであるとしている。この中で「ベビーマッサージなどを用いた児との触れあい方支援は、母親の対児感情、児への育児効力感、自己肯定感が高まり、育児ストレス軽減に有効であった」と結論付けている。

そこで、本研究では、児との触れあい方支援の一つとして「ベビーサイン」に着目し、それらを用いて育児を行った場合とそうでない場合の母親の育児不安感と育児幸福感の違いを検討した。

### 3. ベビーサイン

「ベビーサイン」とは、手話の語彙(sign)とジェスチャーを含む語彙集である。「ベビーサイン育児」では、まだ言葉をうまく話せない乳幼児とベビーサインを使ってコミュニケーションを行う。普段の語りかけに主たる養育者がベビーサインを添えることで、児はその手の動きの意味を次第に理解し、音声言語を発するよりも前から、ベビーサインを使って養育者とコミュニケーションがとれるのである。ベビーサインは、1990年代にア

アメリカで生まれ、日本でも多数紹介され(吉中・吉中, 2002; 2004; 2008; 吉中, 2013; 2015 a; 2015 b; 2019), 全国でベビーサイン教室が運営されるなどベビーサインを使って楽しむ親子は近年大変多くなっている。

ベビーサインについて「CiNii Articles」で調査したところ, 2004年~2019年の間に書かれた論文の中で「ベビーサイン」というキーワードによる検索で検出された文献はわずか18件であった。

赤津・三浦(2010)は, ベビーサインを導入している園に通わせている母親を対象に調査を行った結果, 多くの保護者は親子のコミュニケーションを図る上で役に立っていると感じており, 子どもの考えが理解できることに喜びを感じているとしている。また, 赤津(2015)はベビーサイン教室に通う母親にアンケート調査を実施している。その結果「子どもとの時間を確保するように努力する姿勢が見られるようになり」「子どもの気持ちや要求が理解できるようになり」「子どもの養育に対する自信のなさ, 不安感の解消」につながったが, 赤津自身も調査対象者が少ないことを指摘している。

その後, 松家・藤田・守谷・松原(2016)は継続的にベビーサイン教室に通う親子を対象にアンケート調査を行い, 「ベビーサインは育児における「負担感」と「不安感」の低減に効果があることが示唆された」として, 赤津(2015)の指摘した母親の育児不安の軽減にベビーサインが寄与していることを実証的に明らかにした。ただし, 育児ストレスの要因を統制している訳ではなく, ベビーサインの効果だけに限定できるとは言えない部分があると松家ら(2016)も指摘している。

## II. 目的

以上のように, ベビーサインが広く知られ実践されてきたが, 国内の先行研究では, ベビーサインが育児における母親の育児不安やストレスにどのように影響を与えるかについて, 十分に明らかにされていない。

そこで, 多数の対象者についてのデータが必要であり, 加えて, ベビーサインを取り入れて育児をした群としていない群の対比も必要であると考え。この研究では, 多数の対象者から得られた貴重なデータをもとに, ベビーサインが育児不安感の低減や育児幸福感の向上に寄与するかどうかを明らかにする。

## III. 方法

### 1. 調査方法

調査日は平成29年10月18日~11月30日までとし, 生後2歳未満の児を持つ親を対象としたインターネットを利用したアンケート調査を行った。全国のAショッピングモール内, B薬局, Cスーパーと日本各地のベビーサイン教室と卒業生に調査協力の依頼を行った。

調査協力者に対して, 研究の概要の説明, 調査データの管理方法, 個人のプライバシーの保護について, 回収した回答の使用目的についてあらかじめ文章で説明し, 同意をした場合のみ調査に協力してもらった。

### 2. 回答者の属性の詳細

回収した917名のアンケートのうち, 児の年齢が25ヶ月以上のものと, ベビーサイン育児経験について矛盾した回答(欠落や不備のあったもの)94名を除外し, 823名を有効回答とした(有効回答率89.0%)。

回答者の平均年齢33.8歳( $SD=4.92$ )。その

うち、子どもの性別は、男の子428名、女の子391名、不明4名。児の月齢平均値は、11.9ヶ月 ( $SD=6.28$ )。なお、複数子どもがいる場合は、一番下の子どもの月齢と性別で回答してもらった。

### 3. 調査内容

回答者の年齢、児の月齢、児の性別、ベビーサイン認知度、ベビーサイン育児経験の有無、ベビーサイン育児経験の期間、児ができるようになったベビーサインの数と以下の調査項目①～④に関して尋ねた。

①育児に対する不安感：母親の育児に対する不安感を測定するために先行研究を参考に8項目、5件法で作成した。

②子どもとの関係性：母親が赤ちゃんをどのような存在であると捉えているかを測定するために、ベビーサインを用いることで得られるメリットを参考に作成した。10項目、5件法。

③子どもに対する感じ方：母親が赤ちゃんと関わる時に感じる肯定的感情を測定するために、独自作成した。10項目、4件法。

④育児幸福感：短縮版育児幸福感尺度(清水, 2012)の育児幸福感の3つの因子のうち、対象年齢が24か月以下の内容にふさわしい「育児の喜び」「夫への感謝」の2因子を採用した。10項目、5件法。

## IV. 結果

### 1. 各尺度の因子分析

(1) 育児不安感に関する8項目について、一次元性の確認を行った。「ある」を5点、「時々ある」を4点・・・と回答を点数化した後、主成分分析による解析を行った。最終的に、因子負荷量が高い6項目を採用し、一次元構造であることが確認された(表1)。

表1 育児不安感項目(項目削除後)の主成分分析

項目番号	項目内容	負荷量	平均値
Q1_3	育児に漠然とした不安がある	.843	2.74
Q1_4	自分の育児に自信が持てない	.813	2.96
Q1_2	赤ちゃんが泣いている理由がわからなくて困る	.736	2.76
Q1_1	赤ちゃんが泣くと不安になる	.733	2.65
Q1_5	わが子が可愛いと思えない時がある	.513	1.73
Q1_6	いつになったら話し始めるのかと不安になる	.495	1.64
		固有値	2.96
		累積寄与率(%)	49.33

(2) 子どもとの関係に関する10項目について、「思う」を5点、「時々思う」を4点・・・と回答を点数化した後、主因子法、プロマックス回転を用いて因子分析を行った。解析の結果、共通性が低い項目や複数の因子にまたがり因子負荷量が不十分だった3項目を除いて最終的に7項目を採用した。その結果、第1因子として「赤ちゃんの理解力の把握」と第2因子として「赤ちゃんの表情や仕草による読み取り」に分類した(表2)。

表2 子どもとの関係性項目の因子分析結果(主因子法・Promax 回転)

番号	項目	F1	F2
<b>第1因子 赤ちゃんの理解力の把握</b>			
Q2_10	赤ちゃんはこちらが言ったことを理解していると思う	.867	-.090
Q2_4	赤ちゃんは何もわかっていないと思う (R)	.517	-.022
Q2_9	赤ちゃんのベビーサインで赤ちゃんのことが理解できると思う	.500	.059
Q2_7	赤ちゃんは自発的に何かを伝えることができると思う	.412	.250
<b>第2因子 赤ちゃんの表情やしぐさによる読み取り</b>			
Q2_2	赤ちゃんの表情で赤ちゃんの事が理解できると思う	-.159	.794
Q2_3	わが子と意思疎通ができていると思う	.108	.652
Q2_6	赤ちゃんのしぐさで赤ちゃんのことが理解できると思う	.155	.563
固有値		2.96	1.13
累積寄与率(%)		42.26	58.36
因子相関行列			
1 赤ちゃんの理解力の把握		1.00	.561
2 赤ちゃんの表情やしぐさによる読み取り		.561	1.00

注) (R) は逆転項目を示す

(3) 子どもに対する感じ方の測定の10項目について、4件法で回答を求め、一次元性の確認を行った。「ほぼ常にある」を4点、「かなりある」を3点・・・と回答を点数化した後、最尤法、プロマックス回転を用いて因子分析を行った。その結果、第1因子として「赤ちゃんとの関わり楽しさ、嬉しさ」と第2因子として「赤ちゃんへの愛おしさ、可愛さ」に分類した(表3)。

表3 子どもに対する感じ方項目の因子分析結果  
(最尤法・Promax 回転)

番号	項目	F1	F2
<b>第1因子 赤ちゃんとの関わりの楽しさ・嬉しさ</b>			
Q3_9	赤ちゃんを抱いてかわいがるのが楽しい	.896	-.051
Q3_8	赤ちゃんを抱くのが楽しい	.878	-.076
Q3_2	赤ちゃんと一緒にすごすことを楽しみにしている	.676	.081
Q3_3	赤ちゃんを見ているだけでうれしくなる	.579	.182
Q3_1	赤ちゃんと一緒に過ごす時間をもちたい	.478	.102
<b>第2因子 赤ちゃんの愛おしさ・可愛さ</b>			
Q3_6	この子が私の赤ちゃんであることがうれしい	-.072	.885
Q3_7	赤ちゃんがほほ笑むととてもうれしくなる	-.059	.758
Q3_5	赤ちゃんはかわいいと思う	.238	.605
Q3_10	赤ちゃんが新しい事をするのを見るのが好きだ	.211	.382
Q3_4	赤ちゃんが私を必要としているのが分かる	.180	.340
固有値		4.861	1.182
累積寄与率 (%)		43.88	51.31
因子相関行列			
1	赤ちゃんとの関わりの楽しさ・嬉しさ	1.00	.642
2	赤ちゃんの愛おしさ・可愛さ	.642	1.00

(4) 育児幸福感については、清水 (2012) の先行研究を踏襲し、主因子法・プロマックス回転を用いて因子分析を行った。解析の結果、先行研究同様に、第1因子として「育児の喜び」と第2因子として「夫への感謝」を確認した。

## 2. 各尺度の相関分析

各尺度得点の平均値、標準偏差及び相関分析の結果を表4に示した。

育児不安感とは「赤ちゃんの表情やしぐさによる読み取り」と有意な中程度の負の相関が見られた ( $r = -.403, p < .01$ )。育児に漠然とした不安があったり、自分の育児に自信が持てないといった育児不安感が高いほど、赤ちゃんと思慮疎通の難しさを感じていたり、表情やしぐさから理解できにくいと思っているといえる。

## 3. ベビーサイン育児経験による差異

### (1) 育児不安感および各尺度因子の差異

ベビーサイン育児経験による差異を明らかにするために、ベビーサイン育児経験あり群 ( $n = 445$ ) となし群 ( $n = 378$ ) について、育児不安感および各因子項目得点の平均値を対応のない  $t$  検定で比較した (表5)。

ここでのベビーサイン育児経験あり群とは、ベビーサインを取り入れて育児をしている

表4 各尺度得点の平均値、標準偏差及び相関関係

各尺度	平均値	標準偏差	1	2	3	4	5	6	7
1 育児不安感	14.47	(4.56)	—						
2 赤ちゃんの理解力の把握	17.98	(2.08)	-.278 **	—					
3 赤ちゃんの表情やしぐさによる読み取り	11.69	(2.13)	-.403 **	.475 **	—				
4 赤ちゃんとの関わりの楽しさ・嬉しさ	17.07	(2.66)	-.326 **	.225 **	.276 **	—			
5 赤ちゃんへの愛おしさ・可愛さ	18.92	(1.64)	-.324 **	.291 **	.287 **	.636 **	—		
6 育児の喜び	27.30	(4.15)	-.228 **	.250 **	.227 **	.411 **	.396 **	—	
7 夫への感謝	16.53	(3.79)	-.145 **	.199 **	.116 **	.231 **	.264 **	.458 **	—

注) \*\* $p < .01$ を示す

表5 ベビーサイン育児経験の有無による育児不安感および各尺度の差異

	ベビーサイン育児経験なし			ベビーサイン育児経験あり			F 値	t 値
	n	平均値	標準偏差	n	平均値	標準偏差		
1 育児不安感	375	15.29	4.68	440	13.78	4.34	4.53	4.78 **
2 赤ちゃんの理解力の把握	378	17.23	2.14	441	18.61	1.80	8.53	9.91 **
3 赤ちゃんの表情やしぐさによる読み取り	378	11.24	2.14	445	12.08	2.06	.91	5.76 **
4 赤ちゃんとの関わりの楽しさ・嬉しさ	378	17.08	2.66	442	17.06	2.66	.26	.14
5 赤ちゃんへの愛おしさ・可愛さ	376	18.86	1.69	444	18.97	1.59	1.12	.97
6 育児の喜び	374	27.10	4.48	438	27.47	3.84	3.34	1.27
7 夫への感謝	377	16.35	3.89	444	16.68	3.69	1.60	1.26

注) \* $p < .05$ を示す。

る人たちを指し、ベビーサイン体験会やイベントなどでの一度きりの体験参加者は、含まれていない。

その結果、ベビーサインを取り入れて育児をしている群は、取り入れていない群に比べて、育児不安感が有意に低かった ( $t(769)=4.78, p<.01$ )。

また、子どもとの関わりにおいて、ベビーサインを取り入れて育児をしている群は、取り入れていない群に比べて、「赤ちゃんの理解力の把握」( $t(739)=9.92, p<.01$ )、「赤ちゃんの表情やしぐさによる読み取り」( $t(739)=9.92, p<.01$ )の得点が有意に高かった。一方、育児幸福感の因子である「育児の喜び」「夫への感謝」では、有意な差がみられなかった。

(2) 育児不安感の項目ごとの差異

ベビーサイン育児経験あり群となし群について、育児不安感6項目における項目得点の平均値を、対応のない  $t$  検定で比較した。その結果「赤ちゃんが泣くと不安になる」「赤ちゃんが泣いている理由がわからなくて困る」「育児に漠然とした不安がある」「自分の

育児に自信が持てない」「いつになったら話し始めるのか不安になる」の項目について、ベビーサイン育児経験なし群に比べて、ベビーサイン育児経験あり群の方が有意に得点が低かった (表6)。

(3) 子どもとの関係性の項目ごとの差異

ベビーサイン育児経験あり群と無し群について、「子どもとの関係性」の7項目における項目得点の平均値を対応のない  $t$  検定で比較した。その結果「我が子と意思疎通ができていると思う」「赤ちゃんのしぐさで赤ちゃんのことが理解できると思う」「赤ちゃんは自発的に何か伝えることができると思う」「話しかけると我が子は嬉しそうだと思う」「赤ちゃんのベビーサインで赤ちゃんのことが理解できると思う」「赤ちゃんはこちらが言ったことを理解していると思う」の項目について、ベビーサイン育児経験なし群に比べて、ベビーサイン育児経験あり群の方が有意に得点が高かった (表7)。このことは、ベビーサイン育児経験あり群の方が、赤ちゃんと意思疎通ができていると思っていたり、表情や

表6 ベビーサイン育児経験の有無による育児不安感項目平均値の差異

	ベビーサイン育児経験なし			ベビーサイン育児経験あり			F 値	t 値
	n	平均値	標準偏差	n	平均値	標準偏差		
Q1-3 育児に漠然とした不安がある	377	2.88	1.21	444	2.62	1.14	0.60	3.15*
Q1-4 自分の育児に自信が持てない	378	3.09	1.14	444	2.84	1.09	0.33	3.25*
Q1-2 赤ちゃんが泣いている理由がわからなくて困る	378	3.03	1.11	445	2.54	0.99	6.46	6.61*
Q1-1 赤ちゃんが泣くと不安になる	378	2.80	1.13	445	2.52	1.11	0.00	3.49*
Q1-5 わが子が可愛いと思えない時がある	378	1.77	1.04	444	1.71	0.97	1.92	0.86
Q1-6 いつになったら話し始めるのかと不安になる	376	1.75	1.12	443	1.55	0.98	10.27	2.74*

注) \* $p<.05$ を示す。

表7 ベビーサイン育児経験の有無による子どもとの関係性項目平均値の差異

	ベビーサイン育児経験なし			ベビーサイン育児経験あり			F 値	t 値
	n	平均値	標準偏差	n	平均値	標準偏差		
第1因子 赤ちゃんの理解力の把握								
Q2-10 赤ちゃんはこちらが言ったことを理解していると思う	378	4.23	0.83	444	4.61	0.69	12.1	6.98*
Q2-4 赤ちゃんは何もわかっていないと思う (R)	378	4.73	0.61	444	4.84	0.43	36.5	3.14*
Q2-9 赤ちゃんのベビーサインで赤ちゃんの事が理解できると思う	378	4.03	0.86	445	4.57	0.59	10.5	10.3*
Q2-7 赤ちゃんは自発的に何かを伝えることができると思う	378	4.24	0.83	443	4.58	0.73	11.8	6.21*
第2因子 赤ちゃんの表情やしぐさの理解と意思疎通								
Q2-2 赤ちゃんの表情で赤ちゃんの事が理解できると思う	378	3.65	0.91	445	3.77	0.92	0.66	1.86
Q2-3 わが子と意思疎通ができていると思う	378	3.57	0.89	445	4.11	0.87	7.53	8.73*
Q2-6 赤ちゃんのしぐさで赤ちゃんのことが理解できると思う	378	4.01	0.81	445	4.20	0.83	7.58	3.28*

注) \* $p<.05$ を示す。

しぐさから赤ちゃんの気持ちを読み取ることができると思っていることを示している。

## V. 考察

本論文の目的は、ベビーサイン育児が母親の育児不安感の低減や育児幸福感の向上に寄与するかを実証的に明らかにすることであった。

まず、各尺度の相関分析から、育児不安感とは「赤ちゃんの表情やしぐさによる読み取り」と有意な中程度の正の相関が見られた。これは、養育者が赤ちゃんの表情や仕草を読み取る事ができるほど、育児不安感が低いことを示している。よって、養育者の育児支援として、育児相談などのおしゃべりする場を提供したり、写真撮影や食事会などの集まりを開催するよりも、もっと具体的に目の前のわが子をより良く理解することを支援する方が効果的であるといえる。

次に、ベビーサイン育児経験により各尺度を比較したところ、ベビーサインを取り入れている母親は、取り入れていない母親に比べて育児不安感が低かった。また、ベビーサインを取り入れている母親の方が、取り入れていない母親に比べて、赤ちゃんと言葉疎通ができていると思っていたり、表情やしぐさから赤ちゃんの気持ちを読み取ることができると感じていた。

さらに、ベビーサインの育児経験における「育児不安感」の項目平均値の結果によると、「赤ちゃんが泣くと不安になる」「赤ちゃんが泣いている理由がわからなくて困る」「育児に漠然とした不安がある」「自分の育児に自信が持てない」「いつになったら話はじめるのか不安になる」の項目においてベビーサイン育児経験があると回答した人の平均値が有意で低くなった。これは、まだおしゃべり

ができない乳幼児とベビーサインを使ってコミュニケーションがとれることが、乳幼児が泣いていてもその理由を明確に知る事ができるという安心感や育児に対する自信につながっているからだと推測できる。目の前の乳幼児がただ泣くだけの存在でなく、しっかり意思をもっており、それを話せなくても伝えてくれることができる存在であると認識できることは、育児の漠然とした不安も低減すると考えられる。また、すでにベビーサインを使ってコミュニケーションをとっているので、いつになったら話し始めるのかという不安は自然と低減する。

有意な差が見られなかった「我が子が可愛いと思えないことがある」に関しては、ベビーサイン経験有無に関係なく、時に起こる感情であると考えられる。

「子どもとの関係性」の平均値の結果によると、「我が子と意思疎通ができていると思う」「赤ちゃんのしぐさで赤ちゃんのことが理解できると思う」「赤ちゃんは自発的に何か伝えることができると思う」「話しかけると我が子は嬉しそうだと思う」「赤ちゃんのベビーサインで赤ちゃんのことが理解できると思う」「赤ちゃんはこちらが行ったことを理解していると思う」の項目において、ベビーサイン育児経験ありと回答した人の平均値が有意に高かった。これは、親のベビーサインを児が理解し、児のベビーサインを親が理解することを体験している親にとっては、ごく自然な思いであると思われるが、さらに多くの親に子どもとの良好な関係を持ってもらうためにベビーサイン育児が有効であることを示唆していると言える。

一方で、育児幸福感やわが子と関わる際の楽しさや嬉しさ、可愛さの感じ方についてはベビーサイン育児経験の有無で差は見られなかった。わが子に対する気持ちや、育児にお

ける幸せの感じ方は人それぞれであり、ベビーサインという一つの育児法に左右されるものではなかった。

以上のことから、継続的に養育者がベビーサインを育児に取り入れる事を学ぶ事で、わが子の事をより良く理解することに繋がり、それは、乳幼児の育児における「育児不安」を低減させ、「乳幼児との良好な関係構築」に寄与していることが明らかになった。今後、ベビーサイン育児体験の有無による継続的な調査を実施して、比較検討していきたい。

## 付記

本論文は、第一著者（吉中）の2019年度修士論文をもとに、加筆・修正・再分析したものである。

本論文の調査に協力いただきました大変多くの保護者の皆様、ベビーサイン協会認定講師の皆様に御礼申し上げます。

## 引用文献

赤津純子・三浦香苗（2010）集団保育に取り入れられたベビーサインに関する研究 昭和女子大学生生活心理研究所紀要, 12, 39-49.  
赤津純子（2015）ベビーサインの使用が母親の育児態度に及ぼす効果について. 埼玉学園大学紀要人間学部篇, 15, 117-126.  
松家まきこ・藤田佳子・守谷賢二・松原健司（2016）母親の育児感情と母性意識と与えるベビーサインの効果 国際経営・文化研究, 21(1), 163-170.

大河内絵里（2001）乳幼児を持つ母親の養育感情に関する研究：育児ストレスと母子相互作用に焦点を当てて（平成12年度教育心理学専攻修士論文概要）. 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要, 48, 380-381.

佐野幹剛（2002）育児期母親が子どもの態度を負担と感じる要因の検討 九州理学療法士・作業療法士合同学会誌, 25, 79.

島田葉子・杉原喜代美・橋本実里（2019）育児ストレスや育児不安, 育児困難を抱える母親への育児支援の実際とその効果についての文献レビュー 足利大学看護学研究紀要, 7(1), 69-81.

清水嘉子（2012）母親の育児幸福感をとらえる「短縮版」育児幸福感尺度を活用しようー保健師ジャーナル, 68(8), 716-723.

吉中みちる・吉中まさくに（2002）赤ちゃんとお手てで話そう. 実業之日本社

吉中みちる・吉中まさくに（2004）ベビーサインで楽しく遊ぼう. 実業之日本社

吉中みちる・吉中まさくに著（2008）赤ちゃんとおしゃべりできるベビーサイン. CCRE  
リングダ・アクレドロ, スーザン・グッドウィン  
（著）吉中みちる・吉中まさくに（翻訳）（2010）

最新ベビーサイン・まだ話せない赤ちゃんとおしゃべりできるベビーサイン. 主婦の友社

吉中みちる（2013）今すぐできる かんたんベビーサイン. 遊タイム出版

吉中みちる（2015 a）赤ちゃんのこうしたいがわかる 楽しいベビーサイン. 主婦の友社

吉中みちる（2015 b）きほんのベビーサイン リングカードBOOK. 宝島社

吉中みちる（2019）マンガで分かるベビーサイン. 主婦の友社